

《資料》

二類感染症の市中感染が疑われる国への  
渡航判断に関する一考察  
～MERSに焦点を当てて～

高植 幸子

栢山女学園大学看護学部

要 旨

【目的】MERSの情報を整理し、渡航判断に関する情報収集や感染予防の考え方について考察することである。【方法】既存の資料と外務省海外安全ホームページの「MERSコロナウイルスによる感染症の発生」に記載された内容を整理し、体験から得た情報を加えて渡航判断に関する情報収集や感染予防の視点で検討する。【結果】MERSはラクダを感染源とする新種のウイルスによって感染し、中東においては二次感染が、韓国においては三次感染が確認されている。医療機関と家庭内の単発的な集団感染が認められ、市中感染は確認されていない。韓国への渡航キャンセルが相次ぎ、マスメディアの影響が推察された。院内感染の拡大防止や市中感染への移行防止が可能かどうかの判断は、渡航先の文化的な情報が必要であると考えられた。有効な感染予防策の情報に加え、感染症の疫学や臨床所見の調査結果の情報が、渡航判断には必要不可欠である。【結論】MERSの疫学と臨床所見、国内のMERSの位置づけ、ならびに世界の感染状況を概観した後に、渡航判断に必要な情報と感染予防の考え方を検討した。

キーワード：中東呼吸器症候群，渡航判断，二類感染症